

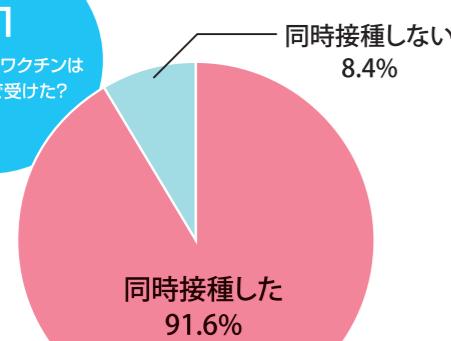


Topics

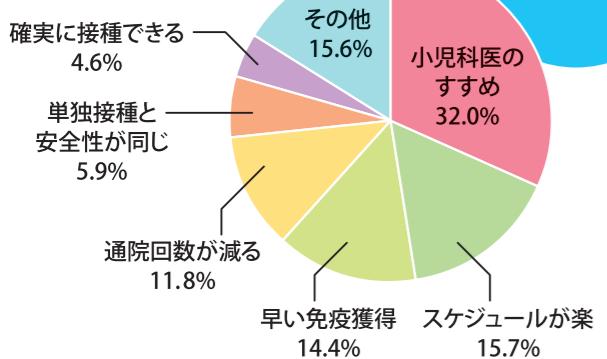
2 同時接種の普及には、“小児科医による勧奨”がきわめて重要 ～保護者アンケート結果より～

ロタウイルスワクチンが2011年11月に発売されたことにより、0歳で接種するワクチンは7種類となり、接種回数も17回以上になりました。この時期のVPD(ワクチンで防げる病気)は、どれも乳児期にかかりやすかったり、かかると重症化しやすかったりするものばかり。予防のために必要なワクチンをできるだけ早期に接種しなければなりません。そこで、おすすめなのが同時接種です。NPO法人VPDを知って、子どもを守る会では、ロタウイルスワクチン接種を受けた子どもの保護者167名を対象に同時接種に関する調査を実施しました。

Q1 ロタウイルスワクチンは同時接種で受けた?



ロタウイルスワクチンを接種した保護者の9割以上が、ほかのワクチンと同時接種で受けたと回答しています(Q1)。その最大の理由として約3割が「小児科医のすすめ」、次いで「スケジュールが楽」、「早期に免疫が得られる」、「通院回数が減る」と回答しています(Q2)。



Q2 同時接種にした最大の理由は?

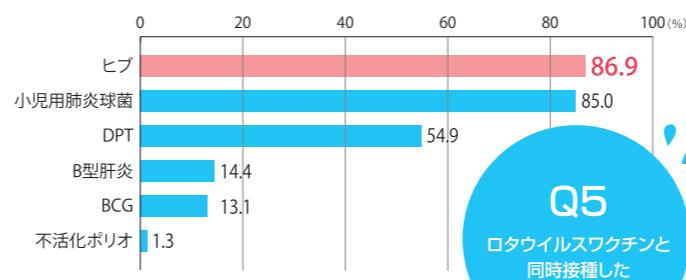
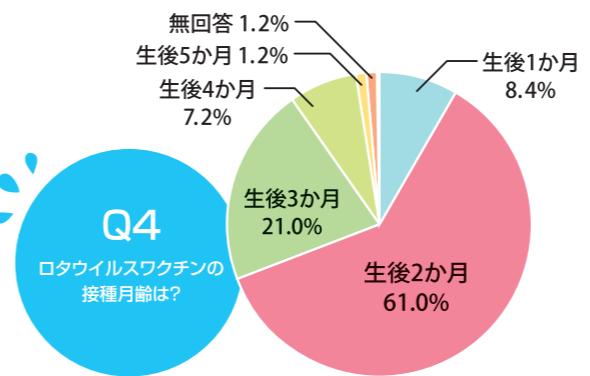
同時接種の情報源(複数回答)は約8割が「小児科医」、約3割が「インターネット」「育児書・育児雑誌」と回答しています(Q3)。

もっとも重視した情報源としては約7割が「小児科医」、約1割が「インターネット」とあり、同時接種に対して保護者が小児科医の意見を参考にしていることがわかります。



Q3 同時接種についての情報源は?(複数回答)

Q4 ロタウイルスワクチンの接種月齢は?



Q5 ロタウイルスワクチンと同時接種したワクチンは?

Q4

ロタウイルスワクチンの接種を始める月齢は約6割が生後2か月、約2割が生後3か月です(Q4)。生後2か月からはヒブや小児用肺炎球菌ワクチンなどと同時接種ができるため、約9割がヒブや小児用肺炎球菌ワクチンと、半数以上が三種混合(DPT)と同時接種しています(Q5)。ロタウイルスワクチンは生ワクチンのため接種後は4週間(中27日)間隔をあける必要がありますので、効率的に受けるためにほかのワクチンと同時接種をしていることがわかります。

Q5

Q6

Q7

Q8

Q9

Q10

Q11

Q12

Q13

Q14

Q15

Q16

Q17

Q18

Q19

Q20

Q21

Q22

Q23

Q24

Q25

Q26

Q27

Q28

Q29

Q30

Q31

Q32

Q33

Q34

Q35

Q36

Q37

Q38

Q39

Q40

Q41

Q42

Q43

Q44

Q45

Q46

Q47

Q48

Q49

Q50

Q51

Q52

Q53

Q54

Q55

Q56

Q57

Q58

Q59

Q60

Q61

Q62

Q63

Q64

Q65

Q66

Q67

Q68

Q69

Q70

Q71

Q72

Q73

Q74

Q75

Q76

Q77

Q78

Q79

Q80

Q81

Q82

Q83

Q84

Q85

Q86

Q87

Q88

Q89

Q90

Q91

Q92

Q93

Q94

Q95

Q96

Q97

Q98

Q99

Q100

Q101

Q102

Q103

Q104

Q105

Q106

Q107

Q108

Q109

Q110

Q111

Q112

Q113

Q114

Q115

Q116

Q117

Q118

Q119

Q120

Q121

Q122

Q123

Q124

Q125

Q126

Q127

Q128

Q129

Q130

Q131

Q132

Q133

Q134

Q135

Q136

Q137

Q138

Q139

Q140

Q141

Q142

Q143

Q144

Q145

Q146

Q147

Q148